

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

農学部生物環境システム学科非常勤講師：岡田 雄峰先生

カナダプログラムにおける Blackboard の活用において

岡田先生は、自然資源保全学 (Natural Resource Conservation) を専門分野にされています。ブリティッシュコロンビア州立大学 (The University of British Columbia) の河川生態保全学研究室・自然資源研究室を経て本学カナダ法人にて農学部カナダプログラムに携わっています。おもに、「地域環境論」、「比較文化論」を担当されています。今回は、岡田先生ご自身の教科での Blackboard@Tamagawa (以下 Bb) の活用に加え、プログラム全 8 教科に、学部引率教員や現地のサポート役を務める職員を TA 権限で登録することにより Bb 上の動きをリアルタイムで把握し、プログラム運営のよりよいサポートの情報源とされている事例を紹介いただきます。



科目の実施規模と Blackboard の活用

◆ 科目名：地域環境論他 (農学部 3 年カナダプログラム受講生 春SEM 46 名・秋SEM 37 名)
運用体制について

カナダプログラムで *VIU が行う授業は、すべて英語で行われることから Bb は英語サポートの観点から活用されることが多い。例えば、教員が授業で使うパワーポイントの資料を授業の一週間前までに Bb にアップロードしてもらうよう要請している。そうすることで各学生が授業の予習・復習を自分のペースで出来るようになる。学生全員の英語能力が均一ではないから、授業中の英語のペースに全員が付いていけるとは限らない。Bb を活用することで、授業時間内だけに囚われないカリキュラムの運営が可能になる。また、プログラムでは「カナダでしか体験できないことを中心にカリキュラムを組む」事が根本的な枠組み作りの基礎になっている。従って、授業内容も実習・見

学・フィールドワーク等を中心に組むことが特色になっているが、このやり方には一つの欠点がある。それは天候や季節の変動によって授業スケジュールが流動的になることだ。例えば、Plant physiology and identification の授業では、カナダ特有の樹木類や草本類の同定を実野外授業で行うのだが、天候や季節によっては、実際に手にとって観察し同定できる種が変わってくる。従って、どの授業で、どの生態系で見られる、どの種を扱うかは各セメスターによって異なるし週単位でも変動する。こうした流動的な授業スケジュールをリアルタイムで学生に伝え、予習・復習させ理解させていくことを可能にしているのが Bb である。また、Presentation Technique for Scientific Expression と呼ばれる授業は、いわば、俗に言う ESL (English as a second language) の授業だが、これらの授業内容は、実は Plant physiology、Plant Propagation、及び Practicum の授業に出てくる理系のトピッ

クや単語を利用して組んでもらっている。ということは、英語の授業を教える教員は、理系の授業の内容を理解していないと内容を十分に教えられない。理系の教員も、英語の教員としっかり連携が取れていないと自分の授業を学生に理解してもらえず授業が成り立たなくなる。更にVIUの広大なキャンパスの中で、理系と英語の教員がそれぞれ席を持つ建物が非常に離れている為、実際に顔を合わせて打ち合わせをするなどという恵まれた機会は殆どない。そこで活躍するのがBbである。英語の教員はBbに掲載された授業のパワーポイントを学生と同じようにダウンロードして予習し、そこで扱われているトピックを利用して授業内容をそのつど調整していく。理系の教員はポイントとなる部分をあらかじめメールで連絡し、英語の授業でしっかりカバーされるようにリクエストすることも出来る。Bbがあることで教員同士の連携もずいぶんとスムーズになりカリキュラム全体のクオリティーの向上に繋がっている。

指導上のメリット

私が担当する地域環境論では、授業参加の「機会」を「多様化」させることを念頭にBbを活用している。学生の学習能力の多様化はここ最近のことではないが、学びのスタイルも同時に多様化しているように感じる。情報が視覚的に提供されたほうが吸収しやすいと言った学生も多いようだ。時間の制限があっても授業では見せられない動画へのリンクなどもBbを使えば簡単に伝えることが出来る。しかし、そもそも授業で教えられる情報量はネットに存在するそれに比べれば微々たるもので（情報の質は別だが）、変化の激しい世の中ではどんな情報もすぐに陳腐化する。従って、地域環境論では情報の提供よりはいわゆる分析的思考（Critical Thinking）の方法を取得しながら環境問題を考えていくことに重点を置いている。例えば、各週の授業の合間に私が環境に関する時事トピックをBBSに投稿し、環境問題について、まず考えることを促す。そして、学生には自分なりの考えや集めてきた情報を投稿してもらおう。授

業中に積極的に発言できない学生ほどBBSでの投稿数が多いなどというのは珍しくない。また、教員がBBS上でフィードバックを行うのと授業中にフィードバックを行うのとでは学生側の受け取り方が全く違う。対面ではなかなか意思疎通が出来ない学生も、案外、Bbを媒介すると違った一面を見せたりすることがあり、それがコミュニケーションの足がかりになることも少なくない。当然ながら、BBSを使うと学生がお互いに学びあう機会も提供することが出来て、多様な学びの場の提供に繋がっている。

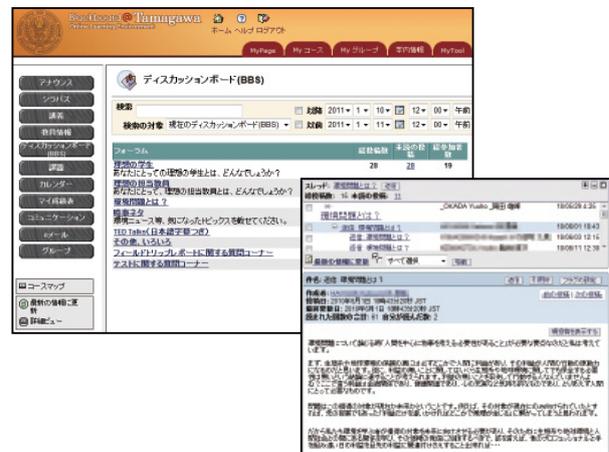


図1. BBS投稿画面

今後について

私は非常勤講師の立場で本業との掛け持ちで授業を運営するため、Bbの活用によって所定の授業時間数以外でもフレキシブルに授業が展開できることは非常に有難い。また、Bbはモバイル機器上でのアプリケーションプラットフォームも提供しており、玉川大学でもいち早くその採用をお願いしたい。どんな人でも経験があると思うが、一人で通勤・通学する電車やバスの中だと、ある日突然、とんでもないアイデアが閃いたりする。しかし、学校や職場で友達や同僚とがやがやしているうちにアイデアは消えてしまう。忙しい一日の中で深い考えに浸ることが出来る機会は本当に少ない。そんな貴重な時間が生み出したビッグアイデアを忘れないうちにすぐにその場で授業に反映できたならどんなにすばらしいだろうか。こんなことを言っていると、トイレの中からBBSに投稿してくる学生が出てくるかもしれないが。

カナダプログラム学生インタビュー

今号の活用事例のカナダプログラムは、学期末に Bb 上で行っている学生アンケートの「Bb でどのような活用が良かったか」や「PC の利用はどのようにしているか」という設問の回答で、学習効果が上がったなど良い面の声が多く挙がる授業の一つでした。岡田先生の事例から運用面の様子がわかったところで、今度は実際にプログラムを受講してきた学生に Bb や留学中の PC の活用について直接聞いてみました。PC が使える状況は、留学中のホームステイ先によってネット回線がまちまちですが、インタビューを受けてくれた 2 人の環境は恵まれていました。キャンパス内も良好で、2 人とも日本から玉川推奨機 PC を持参して活用していました。



図 2. カナダプログラム

◆ 生物環境システム学科 南佳典先生のゼミ生 2 名にインタビュー

「VIU へは MyPC を持って行って学習に使用し、ホームステイ宅にいる時は常に PC を起動している状態でした。」主に、Bb の機能では、課題提出がメールよりも容易に行えることから『課題の提出』、『講義資料のダウンロード』の活用が多く、特に植物や生態等の画像が多い授業でカラーのファイルを入手できたことが授業理解に役立ちました。また、MyPC は、学習面の活用以外でも、



図 3. 学生インタビュー

留学生の週末イベントなどの情報入手、Skype を使って他のホームステイ先にいる友人たちとの情報交換などコミュニケーションをとったり、ラジオの配信にも活躍しました。

カナダではキャンパスやホームステイ先に使用できるプリンタが無かったことも起因していますが、留学中は電子化中心の日々を過ごし、2 人とも現在 3 年生ですが、このプログラム受講時が最も「時間と場所」を選ばない Bb のアドバンテージを享受でき MyPC を有効活用したようです。

愛情点検

今年も大学推奨パソコン「愛情点検」を実施しました。この点検は、推奨機 Let's note の小さな疑問やハードウェアに関するトラブル解決のため、Panasonic の専門技術者により点検・修理などを行うものです。訪れた学生も普段のメンテナンス方法などを熱心に聞いていました。



図 4. 愛情点検

※ IT サポートデスクでは、常時 MyPC に関する質問を受けております。MyPC について困っている学生を見かけましたら、IT サポートデスクに足を運ぶようにご指導をお願い致します。

平成 23 年度「MyPC 推奨モデル」 及び「芸術学部 推奨モデル」決定

次年度(平成 23 年度)の「MyPC 推奨モデル」及び「芸術学部推奨モデル」が決定致しました。

MyPC 推奨モデル Panasonic Let's Note S10

(Microsoft Windows 7、Microsoft Office 2010 搭載)

MyPC 推奨機は、Panasonic 社製「Let's note S10(S シリーズ 2011 年春モデル)」に決定しました。

このモデルは、最新の CPU(Corei5-2520M vPro) を搭載した高性能モデルで、さらに携帯性・堅牢性に優れていて、長時間駆動するモデルです。

保証体制に関しても 4 年間のメーカー補償に加えて落下等の不慮の事故にも対応できる動産保険が付いています。

例年、入学者の約 70% の学生が「推奨機」を購入しています。

先生方も私費もしくは研究費での購入が可能です。ご案内は、新入生への販売終了後準備が整い次第、Notes 掲示板にて掲載します。



図 5. Let's note S10

芸術学部推奨モデル Apple MacBook Pro13 インチ : 2.4GHz

芸術学部の推奨機は、Apple 社製「Apple MacBook Pro 13 インチ」に決定しました。

このモデルは、Intel Core 2 Duo プロセッサとともに、先進の NVIDIA 統合型グラフィックテクノロジーが搭載されています。さらに、4G のメモリと容量アップした HDD の装備により、快適に使用できます。

また、iLife を使用すれば、写真、ムービー、音楽などの編集、制作、録音が効果的かつ簡単にできます。さらには特典として 4GB USB メモリが同梱されます。

保証体制に関しましても MyPC と同様に 4 年間のメーカー補償と動産保険が付いています。



図 6. Macbook Pro

編集後記

今回は、農学部カナダプログラムで、フィールドワークのスケジュール調整や受講生の英語能力差をフォローする等プログラムの特徴に合わせ Bb を使われている事例を岡田雄峰先生に紹介頂きました。インタビューにご協力頂いた南先生、ゼミ生の方々、また、現地にてお忙しい中、アドバイス頂いた小原先生に感謝申し上げます。

新年度も Blackboard@Tamagawa をどうぞご活用下さい。

e-Education NewsLetter 2010 Vol.4

2011 年 1 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp